

LIC トレーナー

【警告】

〈使用方法〉

- ・使用中、めまい・息切れ・頭痛等の症状が生じた場合は直ちに使用を中止すること。
- ・使用においては医師の指示のもと、理学療法士等による管理下で最大圧、使用頻度、使用期間を設定し実施すること。
- ・使用前に安全弁の点検を実施した結果、動作不良が認められた場合は、直ちに使用を中止すること。

*【禁忌・禁止】

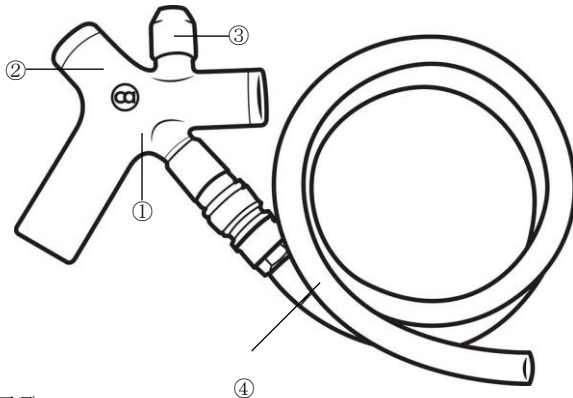
〈適用対象(患者)〉

- ・気胸や肺気腫等、肺実質に問題のある患者への使用は禁止
- 〈使用方法〉
- ・本品は個人の使用に限り、複数の患者に使用しないこと。[複数の患者に使用した場合、機能や効果が低下する原因となる他、ウィルス、バクテリア、細菌、病原菌に感染する恐れがあるため]
 - ・本品を滅菌しないこと。[滅菌できない構造のため]
 - ・陽圧換気により脈拍や血圧等の変化があるためバイタル管理をすること

【形状、構造及び原理等】

〈形状・構造〉

本品は、神経筋疾患における呼吸筋低下による肺の虚脱に対して行われる呼吸理学療法である LIC トレーニング (Lung Insufflation Capacity: LIC) に使用される。



〈原理〉

本品は、本体の一次側 (IN) に蘇生バック (別売) を、二次側 (OUT) にマスク (別売) を装着する。呼吸ラインを患者または補助者が手指で押え蘇生バックで加圧する。加圧する際、本体内に内蔵されている一方向弁により息止めができない患者に対して陽圧を保つことができる。患者が耐えうる最大圧まで加圧したのち患者または補助者が呼吸ラインを開放することで、患者の肺胞を膨縮させ、肺及び胸腔の柔軟性を改善する。また、本品は、二次側 (OUT) とマスク (別売) の間に簡易流量計 (別売) を装着することで、患者の最大強制吸気量 (Lung Insufflation Capacity: LIC) を測定することができる。

〈原材料〉

No.	名称	原材料
①	本体	ポリカーボネート
②	一方向弁 (本体に内蔵)	シリコン
③	安全弁	ポリサルフォン
④	呼吸ライン	塩化ビニル (チューブ) ポリプロピレン (フィッティング部)

【使用目的又は効果】

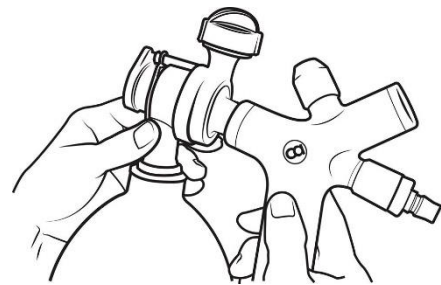
本品は、患者に刺激を与えて換気を改善するために使用する。

【使用方法等】

〈使用方法〉

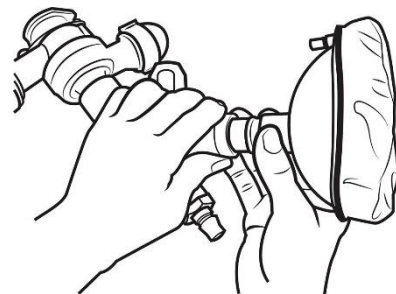
1. 本体の一次側 (IN) に蘇生バック (別売) を装着します。

【注意】 蘇生バック (別売) は接続部のサイズを確認し、確実に装着してください。



2. 本体の二次側 (OUT) にマスク (別売) を装着します。

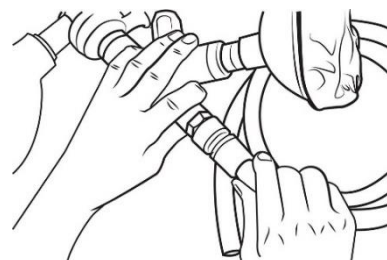
【注意】 マスク (別売) は接続部のサイズを確認し、確実に装着してください。



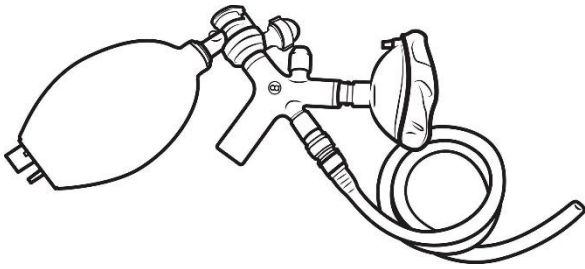
最大強制吸気量 (Lung Insufflation Capacity: LIC) を測定する場合は、本体の二次側 (OUT) とマスクの間に簡易流量計 (別売) を装着してください。



3. 呼吸ラインを本体に装着します。



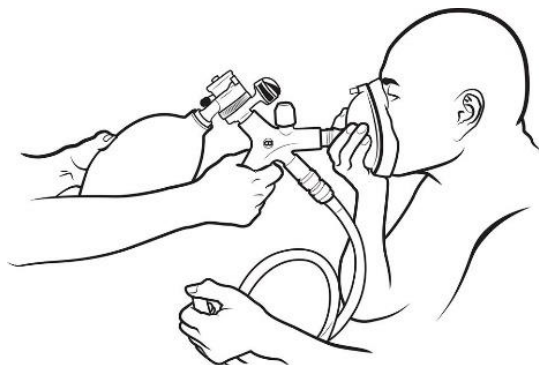
4. 下図のように組み立てられたことを確認します。



5. マスクで患者の鼻と口を覆います。その際、不快感がない程度にぴったりと装着させてください。



6. 患者は呼気ラインを指で押さえます。補助者は医師の指示に従い、ゆっくりと蘇生バックで加圧します。その際、患者はゆっくりと深く息を吸い込みます。



7. 患者は無理をしない程度まで息を吸い込んだ後、呼気ラインから指を外し、大きく息を吐き出します。



この時の最大強制吸気量(Lung Insufflation Capacity: LIC)を簡易流量計(別売)で確認します(簡易流量計を取り付けている場合)

8. 上記手順4~7を繰り返します。
なお、呼気ラインを自力で使用できない患者の場合、呼気ラインを外し、補助者が呼気のタイミングを患者に合わせ、実施することもできます。

*【使用上の注意】

〈重要な基本的注意〉

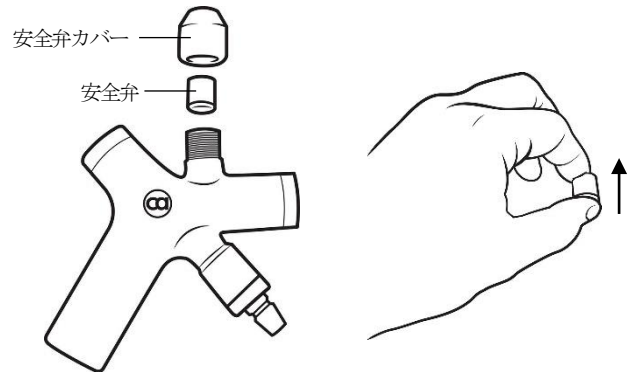
- すべての接続について、ゆるみや外れがないように確実に装着すること。
[接続部からのエアリークにより有効な陽圧が保てない可能性があるため。]
- 呼気ラインについて、過度に引っ張る、折り曲げる等の負荷を加えないこと。[呼気ラインが破損又は変形する恐れがあるため。]
- 安全弁が確実に動作することを使用前に確認すること。
- LIC トレーナーは、肺実質(慢性閉塞性肺疾患<COPD>、肺気腫、プラ、気胸の既往)に問題のある場合、またはその疑いがある場合は、肺損傷を起こす可能性があるため、使用を控えるか、気道内圧管理下で実施すること。
- 人工呼吸器や排痰機器と同様に陽圧換気に伴い、高い圧力がかかった際は、心臓へ負担がかかるため、心疾患及び自律神経障害がある場合、脈拍や血圧等のバイタルに注意すること。

【保守・点検に係る事項】

〈安全弁の点検方法〉

1. 安全弁カバーを取り外し、安全弁のパッキンと胴部が固着していないことを確認します。固着している場合は、指で弁部を2~3回程度、押し上げて動作させてください。

- 安全弁カバーを取り外す。
- 指で弁部を押し上げて動作させる。



2. 本体の二次側(OUT)をゴム栓(別売)等で封印し、呼気ラインを指で押さえながら、蘇生バックで加圧します。その際、安全弁が動作することを確認してください。

〈洗浄方法〉

使用後に本体を温水でゆすぎ、よく水を切って、自然乾燥してください。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

〈製造販売業者〉

カーターテクノロジー株式会社
埼玉県川口市柳崎1-18-11-103
TEL. 048-483-4810